



水 稻 管 理 情 報

播種編

～5つの1か月対策～

育苗日数は1か月以内に計画！

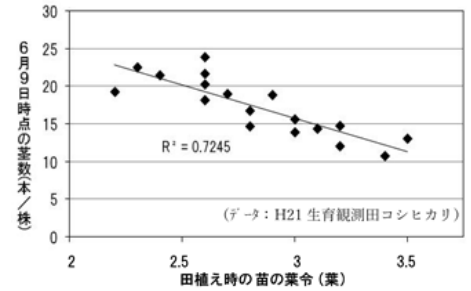
令和7年2月
JA志賀
能登南部営農推進協議会

浸種や催芽は、発芽を揃える上で重要な作業です。また、播種時期は田植え時の葉齢に、播種量は田植え時の植付本数に影響を与えます。良い苗を作るために、しっかり計画を立てましょう！

1 播種計画（田植えの予定に合わせて計画的に）

◆ **播種日は田植え予定に合わせて設定し、健苗を田植えできるように計画しましょう。**

- ・育苗期間は1か月以内としましょう（表1）。
- ・育苗期間が長く、葉齢が進んだ苗（老化苗）は、分けつしにくく、優良茎を確保できなくなります。（図1）



【表1 田植え予定日と適正な育苗日数の目安】

【図1 田植え時の葉齢と分けつの発生の関係】

浸種	3月24日	3月31日	4月9日	4月17日	4月24日
催芽	4月4日	4月10日	4月18日	4月25日	5月1日
播種	4月5日	4月11日	4月19日	4月26日	5月2日
田植	5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日
育苗期間	27日間	25日間	22日間	20日間	19日間

2 種子消毒（適正使用で病害回避）

◆ **籾に付着している病原菌を死滅させ、育苗期間の病害を回避するため、種子消毒剤が吹付されていない種籾は、農薬の適用を確認し、種子消毒を実施しましょう。**

【表2 種子消毒における薬剤の適用（参考）】

薬剤名		使用時期	希釈倍率	処理方法	浸漬時間	薬液温度
テクリードCフロアブル（1成分）		浸種前	200倍	浸漬	24時間	10～15℃
又は タフブロック （0成分）	蒸気式育苗器で催芽	催芽前	200倍	浸漬	24～48時間	10～15℃
	浸漬で催芽	催芽時	200倍	浸漬	24時間	30℃

※ 薬液量は種籾量の2倍の量を準備しましょう。

高い気温の日では、芽が伸びすぎる恐れがあるので、浸漬時間に注意しましょう。

3 浸種（適正水温でしっかり吸水）

◆ **浸種初日の水温は、必ず10～15℃に保ってください。**

- ・ 種子の目覚めには、浸種直後（8～24時間）の水温が重要です。

【表3 浸種初日の水温と発芽率の関係】

浸種初日の水温（24時間）	その後の水温	発芽率
低水温（10℃以下）	10℃～15℃	×
適温（10℃～15℃）	10℃以下	△
適温（10℃～15℃）	10℃～15℃	○

低水温で浸種を開始すると、その後の水温が適温（10℃）となっても発芽率が低下する場合があります。

◆ **酸素欠乏を避けるため、浸種水量は種籾の2倍以上とし、2日に1回程度水を交換。**

- ・ 酸素を供給し、発芽阻害物質を取り除くために、2日に一回程度水を交換しましょう。
- ※ 薬剤吹付済種子は、最初の3日間は水を交換しないで下さい。

◆発芽揃いを良くするため、低温での浸種(10℃以下)は行わない。

- ・良い苗を作るためには、発芽揃いを良くする必要があります。浸種時の水温を10℃～15℃に保つことによって、どの種子にも等しく吸水させることが必要です。
- ・ただし、高水温(20℃以上)では、十分に吸水しないうちに発芽が始まり、発芽ムラの原因となるので、注意して下さい。
- ・浸種は、直射日光や風が当たらない場所で実施して下さい。

◆浸種の積算温度(水温×浸種日数)は100～120℃

- ・**R6年産種子は休眠が深い傾向**にあります。
本年は**積算温度120℃を目安に浸種**しましょう。
- ・浸種終了の目安は、籾殻の上から胚が白く透けて見えるようになった頃です。

【表4 浸種日数の目安】

水温	浸種日数
10℃	10～12日
15℃	7～8日

積算温度が不足すると発芽が揃いません！

4 催芽 (必ず実施し発芽を揃える)

- ・催芽では、発芽に最適な温度を与え、発芽を揃えましょう。
- ・芽は1mm以上伸ばさないようにしましょう。(表5)
- ・催芽揃いを良くするため、袋の中心部と外側で水温差を生じさせないように、袋に詰める種籾量は半分程度にしましょう。

【表5 催芽程度と催芽日数】

水温	催芽程度	催芽日数	注意事項
30℃	鳩胸～ 1mm未滿	1日～ 1日半	<ul style="list-style-type: none"> ・芽を伸ばしすぎると、芽が絡まり、播種ムラの原因となります。 ・芽が伸びすぎた場合は冷水に浸し、伸長を止めて下さい。

ハト胸



伸びすぎ



5 播種 (田植えの予定に合わせて計画的に)

【表6 品種ごとの播種量】

◆品種ごとの播種量の目安について

- ・品種によって播種量が異なりますので、播種機の設定に注意しましょう。(表6)

品種	乾籾重 (g/箱)	催芽籾重 (g/箱)
ゆめみづほ・コシヒカリ	120	156
ひやくまん穀(大粒)	145	189
アキヒカリ(飼料用・早生)	コシヒカリに準ずる	
とよめき(飼料用・中生)	コシヒカリに準ずる	
やまだわら(飼料用・晩生)	130	169

※ 密苗・密播の場合、専用の田植機が必要です。
→通常の田植機で厚播きの苗箱を使うと植付け本数が過剰となり、品質が低下します。

◆床土量やかん水量は、使用する培土に合わせてみましょう。

- ・JAで取扱う軽量型培土は、従来品と比べ床土量、覆土量、かん水量が異なります。
- ・苗立枯病を防ぐため、「ダコニール1000」の500倍液を500ml/箱、散水処理下さい。
※ 種子消毒で「タフブロック」等の微生物農薬を使用した場合は、「ダコニール1000」は使用できません。

6 出芽 (適正温度で病害回避)

◆出芽器を用いた加温出芽では適温の30℃に設定しましょう。

- ・芽を伸ばしすぎると、軟弱で病気に弱くなります。
- ・32℃以上の高温になるとリゾープス菌などが繁殖し苗立枯病の原因となります。

【表7 加温出芽の目安】

出芽温度	出芽日数	芽の長さ
30℃	2～3日	8～10mm程度

◆無加温出芽(平置き出芽)では出芽揃いまで

保温資材で被覆保護しましょう。

- ・保温資材で昼夜被覆し、高温日には30℃以下になるようハウス換気をして下さい。
- ・およそ5日程度で出芽が終了します。その後は慣行の緑化作業を行って下さい。